

緑政審議会 発言要旨		事務局 対応
入江会長	9 頁に「(6)担い手の育成、緑化推進団体との連携」と書かれています。上から 2 点目に「緑地の維持管理に関する担い手の拡大を目指す。」と書いてありますが、場合によっては、今、山本委員からのご指摘に沿って、例えば「市内の <u>大学や高校との連携</u> 」といった文言を加味してもよろしいのではないかなと私は感じましたが、いかがでしょうか。	(文章追加) (3)地域制緑地の管理 ③担い手の確保、緑化推進団体等の育成と連携
	鎌倉のまちの中だけでなく、外の高校、大学も含めてということで、資料 2-4 の「(6)担い手の育成、緑化推進団体との連携」に、文言を加筆していくような形でできたらと思います。	・ <u>県内の学校(高校・大学)との連携についても検討する。</u>
押田代会長 職	市内で活動されている方々は、様々な情報をもっていられっしゃるので、 <u>情報の収集や共有</u> を加えていただきたいなと思います。人材がいるのに、連携できないというのは、せっかくの財産を埋もれさせているようなものですので、ぜひともこれも加えていただきたいなと思います。あわせて、9 頁「(5) 役割分担」のところで、それをどのようにするかを整理できたらより良いと思います。	(文章追加) (5)役割分担 ・ <u>緑地保全手法に関する情報の収集や共有化を図る。</u>
山本委員	私は、鎌倉市内の高校や大学のボランティアサークルの力を借りられないかを検討してみてはと思います。マンパワーには限界があるというのは確かですが、色々なサークルに緑化活動やりませんかなどの声をかけて、担い手の育成を行うという旨の記述を、この部分に記述していただければもっと良いのではと思いました。	(文章追加) (3)地域制緑地の管理 ③担い手の確保、緑化推進団体等の育成と連携 ・ <u>県内の学校(高校・大学)との連携についても検討する。</u>
松行委員	市内の大学や高校との連携ということですが、おそらく鎌倉市であれば、市外の大学でも連携できると思います。市内の大学だけですと数が限られていますし、ボランティアサークルに限らずに、例えば自然系のサークル、ゼミ、授業に絡めていくことは、可能性としてあると思います。例えば私が所属する横浜国立大学では、環境リスク共生学科というものがあまして、そこはかなり生態系の先生がいっぱいいます。大学であれば県内くらいまでならば、鎌倉市に来てくれるのではないかと思いますので、「(6)担い手の育成、緑化推進団体との連携」に書くのであれば、「 <u>市内外の大学や市内の高校との連携</u> 」としていただければと良いかと思います。	(文章追加) (3)地域制緑地の管理 ③担い手の確保、緑化推進団体等の育成と連携 ・ <u>県内の学校(高校・大学)との連携についても検討する。</u>
山内委員	資料に書かれているとおり、マンパワーが十分に増えていかないという現状があります。これから益々緑の質を上げていくような活動をするためには、どこかで人材を獲得しなければならないので、このレンジャー制度のみならず、そのようなリーダーの育成をすることで、 <u>他の市民や観光客を巻き込んで、新たな担い手を模索していく</u> 、明確にそのようなことをやっていくとうたった方が良いと思いました。	(文章追加) (6)担い手の育成、緑化推進団体との連携 ・ <u>様々なステークホルダー(市民や観光客など)と連携し、新たな担い手づくりを模索していく。</u>